

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和5年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈知 育〉

○ 主体的に学び確かな学力を身に付けた児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
知 育	1 授業の充実 「授業プロセス」「ICT・タブレット」「表現力」「個別指導」「全員参加の授業」「習熟を図る場面等の拡充」等	○「学びたい度」…70% ①学校に行くのは楽しいか。 ②将来の夢や希望はあるか。 ③地域や社会の問題や出来事に関心があるか。 ④人の役に立つ人間になりたいか。 ※ R4…48%	◎「学びたい度」は54%。授業プロセス表や校内研修の昨年度作成した授業の手立てを共通実践していく表現力を授業改善のために現れ始めている。その成果が徐々にテストの点数などにおいてICT機器の活用を積極的○各教科の授業においてICT機器の活用を積極的に進め、低学年児童も含めて、タブレット操作のスキルが向上し、学習の中で効果的に活用できている。	3.38		・ 研修を中心に全職員で授業の改善に取り組むことができた。 ・ タブレットについては、調べ学習、学び合い、授業の振り返りなど様々な場面で活用できた。
	2 家庭学習の充実 「精選」「タブレット持ち帰りによる宿題」等	○週末の宿題の原則廃止 ○宿題をしない児童の減少 ○タブレット持ち帰り毎週実施	○週末に宿題を出さないようにしたことによって、宿題をしない児童が激減した。(12学級中9学級が恒常的な宿題忘れがなくなり、他学級も1～5週程度に減少)取り組む児童が増えた。 ○週末に宅習に取り組む児童が増えた。 ○タブレット持ち帰りによる宿題を、3年生以上で毎週水曜日に実施することができた。	3.29		・ 週末の原則宿題廃止により、週明けに教師も児童も落ち着いて授業に取り組むことができた。 ・ 今後は、自分で考えてやる家庭学習にどうつなげていけるかが大切である。
	3 読書活動の充実 「家庭と連携した読書」「読み聞かせ」「新聞活用」等	○「年間図書貸出冊数」…1人平均100冊以上 ※ R4…138冊/1人	◎「図書貸出し冊数」106冊/1人 ◎ 100冊以上163人(11/24現在) ○ 図書主任と学校図書館協力員との連携及び委員会活動の充実により、主体的な読書活動が定着してきた。	3.21		・ 目標があることや学校図書館協力員及び図書委員の活動により、児童が積極的に読書活動を行えた。
	4 学力調査等の活用 「分析を生かした指導」「過去出題問題の活用」「情報量の多い問題の積極活用」等	○「全国学テ(6年)」「みや学テ(5年)」「CRT」全教科 国・県・市平均超え ○単元テスト(国・社・算・理)学級毎平均点の目標値超え ※ R4 全国テ：国65%、算67%、理68%→国・県・市平均以上 みや学テ：国53%、算69%→国・県・市平均以下 CRT：現5・6年国・及び現4・6年算が国平均以下	◎ 全国学力テスト 国語69%→国・県・市平均上回り 算数56%→国・県・市平均下回り ◎ 単元テスト平均点 R4は80点未満が、60点台を含め延べ16学級もあつたが、現時点で6学級となり、60点台はみもられない。 ○ 職員研修で結果分析や調査問題を實際解くことで、本校の児童に身に付けさせなければならない力を共通理解し、授業等の工夫を行うようにしている。 ※ 今年度から「みや学テ」の対象学年が4年生となった。	3.17	3.20	・ 単元テストはほとんどの学級で目標値を達成できた。 ・ 個人差が大きく、低学力の児童をいかに引き上げていくかが今後の課題である。 ・ 全国学テやみや学テについては、過去問などに取り組ませたが、授業との関連を考慮していく必要がある。

知 育	5 特別支援教育の充実 「個に応じた指導」「特別支援教育 支援員等の有効活用」等	○「特別支援教育支援員」や 「学校非常勤講師」の有効 活用 等	○ 教育支援教育委員会や特別支援教育支援員からの 情報を共有し、困り感のある児童の支援の仕方につ いて組織的な対応を行っている。 ○ 特別支援学級における指導が充実し、児童にも変 容がみられる。	3.21	・ 個に応じた指導 が十分にできてい ないと感じている 職員が多い。 ・ 特別支援教育支 援員による支援は 必要不可欠である。
	6 学習のしつめの徹底 「授業」「家庭学習」等	○正しいえんぴつ握り90% 以上 ※ R4…70%	○ 授業中の態度や宿題の提出状況等、R4に比べて大 きく改善している。 ◎ 正しいえんぴつ握り（低学年） 6月【49.0%】7月【50.0%】10月【61.8%】 少しずつ定着しているが、癖がついた握り方を直す のは家庭との連携も必要になってくる。	2.62	・ 学習のきまりな ど全職員で共通理 解し、実践できて いるので指導しや すい。 ・ 鉛筆の握り方は、 声かけはできたが、 定着するまでに至 っていない。
	7 一部教科担任制等に よる指導の充実 「交換授業」「各種専科」等	○「交換授業」 ・ 5年：総合×家庭 ・ 6年：社会×家庭・書写 ○「各種専科」 ・ 3～6年：体育・音楽・外国 語・理科、5・6年図工	○ 教員の専門性等を生かした指導により授業が充実 し、授業準備の効率化等も図られている。 ○ 中学校への接続の観点からも意義がある。	3.50	・ 専門的な指導を 受けることができ、 児童も意欲的に学 習に取り組むこと ができた。 ・ 専科の充実によ り、教材研究等も 十分行うことがで きた。
	8 キャリア教育の充実 「小林キャリア教育センター」 「KSSVC」「地域人材・団体」 「学習支援ボランティア」の活用等	○南校区まちづくり協議会 や社会福祉協議会との連携	○ 成澤俊輔氏講演、連携推進アドバイザー講話（職 員研修）、七夕飾り作り、ななつ星授業、図書の贈 呈、ななつ星歓迎式、味覚の授業、昔の遊びフェス ティバル等の、他ではできない豊かな体験活動を実 施することができた。 ○ 今後は、南小まつり（製作等体験活動、ラジオ収 録等）、熱気球搭乗体験、台湾との交流（ZOOMに て3回）、玉名高校ブラスバンド部演奏会、クラブ 活動（グランドゴルフ）等に取り組む。	3.23	・ 地域と連携する ことにより、豊か な体験活動を行う ことができた。 ・ 学習支援ボラン ティアを効果的に 活用できている。

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和5年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈徳 育〉

○ 思いやりの心を持ち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
徳 育	1 望ましい生活に関する指導の充実 「きまり」「生活習慣」「礼節」	○「あいさつ」「無言清掃」の徹底指導	○「日本一のあいさつ」を合言葉に学校内だけでなく地域でもしっかりとあいさつができる児童の育成を目指している。あいさつはもちろん、会釈もしっかりとできる児童が育っている。 ○清掃時間は本年度から反省会の時間をなくし、時間いっぱい清掃を行うようにした。児童一人一人が無言で時間いっぱい清掃を行う姿が見られる。 ○各学級において「みなみっ子の一日」を使って学校のきまりを確認し、落ち着いた学校生活が出来るように指導している。	3.14	3.20	・ 学校内でのあいさつ、会釈等とてもよくなっている。 ・ 清掃やボランティア活動など、高学年が手本となる場面が多く、学校全体により影響を与えている。
	2 道徳教育・人権教育の充実 「道徳の授業」「情報モラル」「言語環境」	○「道徳の時間の指導」「情報モラル教育」の充実	○道徳の時間の指導を計画的、系統的に実施し、道徳的实践力の育成を図っている。 ○「西諸人権の日」に合わせ、6月の参観日では人権に関する学習の授業参観を実施した。12月には人権週間を設定し、人権教室や人権研修を実施する。 ○情報モラル教育については、警察署が実施している非行防止教室を活用し、6年生を対象に指導を行っている。 ○タブレットPCで、チャット機能を悪用する問題行動が発生し、当該保護者も含めて指導等を行った。	3.00		・ 学級で情報モラルに関わる事案が起きたが、個別指導だけでなく学級全体で考えたことで、児童のその後の指針を確認することができた。
	3 問題行動等に関する指導の徹底	○いじめ認知解消率100%、不登校率0% ※ R4…いじめ認知件数41件中30件解消 不登校傾向4名中4名解消	◎ いじめ認知件数【19件】いじめ解消件数【13件】 ◎ 完全不登校児童【0件】 ○ 毎月アンケートを実施し、問題行動の早期発見、早期解決に努め、「いじめ不登校対策会議」を開催し、全職員で共通理解を図っている。 ○ 連絡のない欠席児童や不登校傾向の児童に細やかに連絡をとり、保護者にも寄り添う姿勢で対応している。	3.43		・ 全職員がアンテナをはって問題行動等に迅速に対応したり、1人で抱え込まずチームで連携したりすることで、いじめや不登校の解消ができている。
	4 主体的な活動の推進 「清掃」「係活動」「委員会活動」「ボランティア活動」	○ 係、委員会活動、ボランティア活動の充実	○ 委員会活動やボランティア活動では、美化栽培委員会のトイレの点検活動や生活委員会の掲示物の点検活動など、よりよい南小学校を作り上げていく上でどんなことが必要か児童が主体的に考え、取り組む姿が見られるようになってきた。	3.23		・ それぞれの委員会で学校のために何ができるか考えて主体的に活動することができた。

令和５年度 小林市立南小学校 自己評価書

NO. 3

評価段階 ４：期待以上 ３：ほぼ期待どおり ２：やや期待を下回る １：改善を要する

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和５年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈体 育〉

○ 健康や体力に関心をもち、自ら行動する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
体 育	１ 体力・運動能力の向上 「体育の授業」「課題解決のための取組」	○体力・運動能力テスト県 平均超え項目７０％ ※ Ｒ４…６８％	◎ 体力・運動能力テスト県平均超え【８２％】 ○ 体育主任を中心に体力向上プランをもとに課題が見られる運動領域について、体育科授業を中心に指導を行っている。また、運動しやすい環境の充実に図っている。 ○ 体育科授業での運動量の確保、持久走月間、なわとび月間の実施、外遊びの奨励等を行い、運動の日常化を推進させ、体力の向上を図っている。 ○ 働き方改革により、昼休みに児童と一緒に活動する職員が増えた。	3.31		・ 体育の授業や体力を高める活動を計画的に実施したことにより、児童の体力が向上し、宮崎県体力づくり優良校にも選出された。 ・ 昼休みの時間に外遊びをする児童が多い。
	２ 姿勢等の指導の徹底 「立腰」「集団行動」	○立腰（全学年徹底）１００％ ※ Ｒ４…６３％	○ 姿勢写真の各教室への掲示を行い、よい姿勢を意識させるとともに、始業、終業時の立腰指導の徹底を図っている。始業、終業時の立腰は全学年で徹底できているが、常時、よい姿勢を維持することは難しい状況である。 ○ 集団行動については、体育主任を中心に指導を行い、運動会においてもきびきびと行動することができた。	2.77	3.08	・ 立腰については、機会を捉えて声かけ指導を行っているが、徹底しているとはいえない。継続的な指導が必要である。
	３ 家庭と連携した健康教育の推進 「疾病治療」「感染症対策」「フッ化物洗口」	○むし歯治療率１００％ ※ Ｒ４…６９．７％	◎ むし歯治療率【４６％】 ○ う歯については、フッ化物洗口や養護教諭による学級での歯みがき指導を行っている。治療勧告等も定期的に行い治療率の向上を目指している。 ○ 児童の手洗いや手指消毒、教室の常時換気等を習慣化させ、感染症対策の徹底を図っている。	3.14		・ むし歯の治療率については、養護教諭や学級担任も計画的に呼びかけをしているが、保護者の意識等もあり１００％の達成はできなかった。

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和5年度スローガン 『みんなてつくる みんなの南小学校』

〈食育〉

○ 食に関心をもち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
食 育	1 食に関する指導の推進 「食から始める健康『元気なみやざきっ子』食育推進事業」	○「生きた教材」としての学校給食の活用 ○「弁当の日」写真展への応募 ○食に関わる人に感謝する活動の工夫	○ 遠足時に「弁当の日」を設定し、発達段階に応じた取組をさせている。 ○ 「弁当の日」の写真展への応募、5年児童が「味覚の授業」に参加するなど食に関する意識を高める活動を推進している。 ○ PTA活動として「弁当の日」のドキュメンタリー映画を上映するなど食に関する研修を実施した。 ○ 給食感謝集会を実施し、給食委員会の発表や全校児童がメッセージカードを作成するなど食に関わる人たちに感謝の気持ちを伝える活動を実施した。	3.29	3.29	・ 「弁当の日」ドキュメンタリー映画の上映会では、保護者や地域の方の参観もあり、食に関する意識の啓発に効果があった。来年度は、「弁当の日」の取組について、より一層充実したものにしていきたい。
	2 給食の時間の指導の充実 「準備から片付けまで」「偏食」「マナー」「残食」	○給食の準備、喫食、片付け等に関する指導の徹底 ○「偏食」「残食」「マナー」等に関する指導の徹底	○ 各学級で給食時間に「マナーカード」を提示し、食事前に確認することで、食事の望ましい態度やマナーの育成を図っている。 ○ 月毎に残菜調査を行い、残菜量を職員で確認し、残さず食べる意識を高めている。 ※ 残食率0.4～1.4%	3.07		・ 食に感謝する視点から指導したことで、残食は0に近い結果だったが、時間内に食べることや食器をもつことなどのマナー指導が今後の課題である。
	3 個別の相談指導の充実 「肥満傾向」等	○身体視力検査や各種健康診断などを活用した健康状態の把握及び指導	○ 養護教諭を中心に視力低下や肥満傾向の児童に声をかけたり、学級担任と情報共有を行ったりすることで、児童の健康に対する意識を啓発している。また、家庭へも情報提供を行い、家庭での生活にも留意するように呼びかけている。	3.00		・ 家庭との連携が難しい部分もあるが、学校では、肥満傾向の児童等に、外遊びを推奨したり、バランスよい食事を心がけるよう指導したり啓発を行った。また、希望者とその保護者は、専門機関につなぎ、面談を受けさせた。
	4 食物アレルギーを有する児童への適切かつ確実な対応 「体制の確立」「対応の徹底」	○代替食等の確実な管理及び当該児童への適切な対応	○ 食物アレルギー児童への対応について、年度当初に実技研修を行うとともに、計画的に研修を行い、全職員で安全面に配慮して対応している。 ○ 宿泊を伴う学習の際には、旅行業者や施設等との打合せを徹底し、事故防止を図っている。	3.79		・ 修学旅行でも組織的な対応ができた。研修等の成果で、全職員の理解とサポート体制が整っている。

令和5年度 小林市立南小学校 自己評価書

NO. 5

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和5年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈その他〉

○ 服務規律の徹底と子どものための働き方改革の推進

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
そ の 他	1 服務規律の徹底	○法令及び倫理等に反する 行為ゼロの維持	○ 定期的または必要に応じてコンプライアンス研 修を実施している。 ○ 現時点で非違行為等はみられない。	3.71	3.52	・ 全職員のコンプ ライアンス意識が 高く、服務規律の 徹底が図られている。
	2 働き方改革の推進	○時間外勤務の削減 ・ 月平均時間外勤務45時 間以上の職員数削減 ※ R4…45時間以上：延べ 52名(10月末まで) 60時間以上：延べ16名 (10月末まで)	◎ 月平均時間外勤務45時間以上：30名 (10月末まで) 60時間以上： 8名 (10月末まで) ○ 業務精選、適材適所、校時程の改善、会議等の 精選、ノー会議デー(金曜日)、宿題改革、決裁の 工夫、教育スキルアップ研修、一部教科担任制、 交換授業、第6学年副担任制、学習支援ボラン ティア(授業・事務：毎日来校)、SSS等々の取組 により実態が改善した。	3.36		・ 様々な業務改善 を行うことで、時 間外勤務の削減が 図られている。特 に、学習支援ボラ ンティアの効果が 大きく、子どもに 向き合う時間の確 保ができている。
	3 学校運営協議会の在 り方の改善	○学校運営企画会の実施	○ 概ね月1回の企画会を行うことにより、学校運 営協議会委員の皆さんに、より具体的に、詳しく、 学校の教育活動について知っていただくことがで きるようになった。	3.50		・ 地域の方に学校 経営に参画しても らうことができ、 地域の方は学校を 職員は地域をより 身近に感じてもら うことができた。